

「株式投資」を学ぼう②

あんびる えつこ Ambiru Etsuko 文部科学省消費者教育アドバイザー
「子供のお金教育を考える会」代表 (<http://www.kids-money.jp/>)。著書に「アクティブ・ラーニングで楽しく！消費者教育ワークショップ実践集」(大修館書店、2018年)ほか

お金理解度チェック

次の①～③のうち、内容が合っていると思うものの□に✓をしましょう。

- ①「^{なりゆき}成行注文」で株を買う場合、想定外の高い価格で買ってしまふこともあるので注意が必要だ
- ②一般的に「PBR(株価純資産倍率)」は高いほうが、株式が割安であるといえる
- ③「バリュー投資」とは、株価の割安な銘柄に投資する手法である

内容が合っているもの(✓)は……①と③

今回は株式の検討から購入までをみていきます。

取引に必要な金額を把握しよう

株式投資にいくら充てるのかをよく考えたら、「何(銘柄)を、いくらで(価格)、どれくらい買うか(株数)」を、具体的に検討していきます。

よく新聞などで目にする株価は、その銘柄の「1株」の価格です。株は一般的に「100株単位」の売買が基本(単元株)になるため、例えば株価が500円なら100を掛けた5万円と、取引手数料を足した額が、購入に必要な金額になります(図)。

もっと少ない金額で株式投資したい人向けに、証券会社によっては、単元株より細かい単位で株の取引を行う「ミニ株」や「単元未満株」を取り扱っているところもあります。通常の株式投資と同じように保有株数に対応した配当がもらえますが、株式総会での議決権はなく、また優待が受けられないケースもあるなど、単元株で購入する場合と取り扱いが異なることもある

図 株式購入の際に必要な金額

$(\text{現在の株価}) \times (\text{購入株数}) + (\text{取引手数料})$

新聞や証券会社の
サイトなどで確認

多くの場合
購入単位は100株

証券会社や取引方法、
金額等によって異なる

ので、事前によく確認しておきましょう。

注文には2つの方法がある

注文には「成行注文」と「^{さしね}指値注文」があります。

「成行注文」は、注文が受け付けられた時点の価格で買ったり売ったりするもので、確実に売買できる反面、注文のわずかな時間で株価が変動し、想定外の高い価格で買ってしまったり、低い価格で売ってしまったりすることもあります。

一方「指値注文」は希望する価格を指定して注文を出す方法です。希望する価格にならないと注文が成立しないため、売買できない可能性があるというデメリットがあります。

株の取引ができるのは、立会時間と呼ばれている時間に限られます。東京証券取引所などは、土曜・日曜日、祝日、12月31日～1月3日を除く、9時～11時30分(前場)、12時30分～15時(後場)と決まっています。開始時間直後や終了間際には、株価が急に動くことがあるので注意が必要です。ネット証券の場合には、メンテナンス時間を除けば、24時間いつでも注文を出しておくことが可能です。

市場評価を知るための指標と手法

気になった銘柄があったら、その会社について情報を集め、よく検討していきます。市場で

表 知っておきたい指標

	PER (株価収益率)	PBR (株価純資産倍率)	ROE (自己資本利益率)
視 点	株価を利益の面からみる	株価を純資産の面からみる	株主からみて効率的な経営かどうかを判断する
計算式	$1 \text{ 株当たりの当期純利益 (EPS) (円)}$ $= \frac{\text{税引き後当期純利益}}{\text{発行済み株式総数}}$ PER (株価収益率) (倍) $= \frac{\text{株 価}}{1 \text{ 株当たりの純利益 (EPS)}}$	$1 \text{ 株当たりの純資産 (BPS) (円)}$ $= \frac{\text{純資産}}{\text{発行済み株式総数}}$ PBR (株価純資産倍率) (倍) $= \frac{\text{株 価}}{1 \text{ 株当たりの純資産 (BPS)}}$	$\text{ROE (自己資本利益率) (\%)}$ $= \frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本 (期首・期末平均)}} \times 100$
備 考	一般的にPERが高いほど割高、低いほど割安と考える。ただし業種によって水準が異なる。また、成長が期待される企業はPERが高くなる傾向がある	一般的にPBRの倍率が高いと割高、低いと割安と考える。PBRが1倍以下になると、帳簿上、株価は解散価値を下回っていることになる	ROEが一般の金利水準より低ければ、その企業に出資する魅力がないことになる

の評価を知るためには、いくつかの指標を理解しておく必要があります(表)。

「PER(株価収益率)」は、株価の水準が、利益からみて、割安なのかどうかをみるための指標です。業界によって水準が異なるので、同業種の企業や過去のPER水準と比べて割安かどうかをみるようにするとよいでしょう。

また企業の資産に注目した指標に「PBR(株価純資産倍率)」があります。企業の純資産は、企業のオーナーである株主のものであり、株価はその対価と考えることもできます。そこで、株の購入で得られる純資産に対する支払い金額(株価)の比率であるPBRをみて、割安かどうかの判断材料にしようという考え方が出てきます。PBRは低ければ割安ということなので魅力ですが、業績や資産の質などもみておく必要があります。PBRは、割安なものに着目するよりは、明らかに割高な銘柄を除外するために使うとよいといわれています。

また「ROE(自己資本利益率)」は、自己資本をどれだけ効率よく使って、利益を上げているかどうかをみる指標です。ROEも、業種によって平均的な水準が異なるので注意が必要です。

株式投資の代表的な考え方に「バリュー投資」と「グロース投資」というものがあります。「バリュー投資」とは、株価の割安な銘柄に投資する手法で、一般的にPERやPBRが低いものなどが対象になります。一方「グロース投資」は、企業の成長性や将来性に着目し、業績の伸びが期待できる銘柄に投資する手法です。PERやPBR

の数値は多少高くても、今後の成長を期待して投資するといったスタンスをとるものです。

さまざまな視点から検討しよう

投資する銘柄を選ぶ際には、こうした指標だけでなく、さまざまな視点から検討し、判断する必要があります。例えば、自身の消費者としての視点から、便利だと思うモノやサービスを提供している企業や、魅力を感じる企業を選ぶというのも、立派な判断材料の1つです。

また昨今は、ESGやSDGsへの取り組みを評価する向きもあります。ESGは環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取ったもので、企業の長期的な成長のためにはこの3つの観点が必要だといわれています。SDGsは、2015年に国連総会で採択された国際的な開発目標のことで、SDGsに取り組む企業は、長期的な企業価値の向上が期待できると考えられています。

未公開株のトラブルに注意

よい株はないかと探していると、「必ず値上がりする」「近々上場予定の未公開株」などというたい文句に出くわすことがあります。正規の証券会社は、電話やダイレクトメールなどでの非上場株式(取引所に上場されていない株式)の投資勧誘はしていません。不審に思ったら、日本証券業協会「株や社債をかたった投資詐欺」被害防止コールセンター(フリーダイヤル0120-344-999)などに問い合わせましょう。